

お題目をいただいて750年

本門法華宗総長
高辺信幸

リレー提言⑥

ひろめよう・伝えよう・お題目を



大本山妙蓮寺山門

平成十四年、我々日蓮聖人門下では開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流様々な企画が進行中である。後世のためにも、門下総力を上げて今この時代に爪の跡を残し祖恩報謝に勤めよう。

今世紀末を迎え、ますます社会的混迷はその色を濃くしています。こうした状況の中で来る平成十四年の日蓮聖人立教開宗七五〇周年は刻一刻と迫ってまいりました。日蓮聖人門下連合加盟の各宗各派の宗団は、それぞれ宗祖の願いに沿う事業に着手されておられますこと、当宗におきましても誠に慶ばしいこととあります。

私も「本門法華宗」も、この聖辰を迎えるにあたって時代の変革を見極め、真に宗祖の御心に叶うべく、慎重を期しながら平成八年春に本門法華宗宗務院に奉議会本部を設置し、門末各寺院を支部とする立教開宗七五〇周年奉議会が発足いたしました。その本部に執行委員会が組織



発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)3751-7181

平成9年8月1日
第16号



高辺信幸総長

宗祖の御心に 応える道

「毎に自らは念を作す、何を以てか衆生をして無上道に入り速やかに仏身を成就せしめん。菩薩の誓願を受けられた聖人は、私どもに題目の要法をもつて平安な生活と、仏国土の実現を期されました。また、「日蓮が慈悲廣大ならば、南無妙法蓮華経は万年の外未来までもながるべし」との悲願は、時代を超え脈々として今日私どもに託されているといえましょう。

この立教開宗の精神は、私ども一人一人の意識の深化を促すことは申すまでもなく、法華経精神に連なる信徒をはじめ、広く一般社会の人々にも呼びかけることに意義があらましよう。

現代社会は混迷の色彩を深め物質文明の前進が不安視されつつあります。先人が嘗々として努力し、粉骨砕身してこられました。そうした努力にもかかわらず、戦後経済の高度成長による社会の歪み、精神文化の低迷を来しております。

その時代を見つめ直し、事実を事実として素直に省み、宗祖の願いに応える方向をめざし、原点に帰って再出発をいたす時であります。それは、私どもが少なくとも迷える大衆の願い、心に対しあまりにも無関心

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いします。本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。
「日蓮聖人門連だより」編集委員会一同

であったことは否めないでしょう。今日の現実をそのまま聖人時代に置き換えてみれば開宗宣言に踏み切られた聖人が衆生救済を現実社会の実相に怒りと悲しみを抱かれ、法華経の教えに身を投じて、仏の大慈悲に生きようとして、立教開宗の宣言をされました。

いま「お題目をひろめ伝えよ」と願うならば、私ども一人一人が宗祖の御心を我が心として法華経の弘通



大本山妙蓮寺本堂

復元立宗五十年を 期に新たな出発

当宗にとりましては、昭和二十七年の復元立宗より平成十四年で五十年の節目を迎えることになりました。この節目にあたって、今一度私たちがおかれている現状を再確認すべく復元立宗当時の状況をよくご存じの方々に「本門法華宗五十年の歩み」(仮題)をご執筆頂いております。当宗のこれからの五十年は、新たな出発として把握しておく必要があります。この五十年の歴史をしっかりと踏みしめ、その上に、弘法の先達となる法器の養成を重要施策として、内外の英知を結集してその充実

強化を図りたく準備を進めております。なお、大本山妙蓮寺におきましては、平成五年夏に宝蔵の中より「松尾社一切経」三千六百余巻が発見されました。平安時代後期の写経で、京都、松尾社に奉納されていたものが幕末に行方不明となり、立正大学教授・中尾堯先生の古文書実習の折りに発見されました。

その三年間の調査研究によって平成九年五月、「京都妙蓮寺蔵」松尾社一切経調査報告書が刊行され、同月、当宗末寺並びに京都門下連合会傘下の各御本山に贈呈させて頂きましたことをご報告させて頂きました。私たちの依って立つ足元を今一度しっかりと見つめ直し、その上で未来を担う人々と共に歩んでゆく。それが私たちの宗団の願い、また、宗祖日蓮聖人への御報恩感謝であることを私たちは確信しております。

從地涌出

◆合掌する姿は仏教徒の基本的な信仰の姿。拝む人は拝まれる人。その心は「拝む姿はきれいに咲いた心の花である。」人間の心のいのちは地球より重いとよくいわれる。
◆いたましい殺人や自殺幼児虐待等が新聞に書き立てられる。また青少年犯罪事件が低年齢化し社会問題となっている。

生命軽視の風潮は楽しいはずの人生に黒い影をなげかける。便利な時代になり、しあわせが増す筈なのに、どこか心の片隅に不安が潜む。明るく住みよしい、潤いのある世の中にするためにいろいろと思索する。拝む心で生活したならばそこに解決の一端が見いだせるのではないだろうか。合掌はお互いの人格を尊敬し合い、愛し合い、助け合うという仏様の教えを表した姿でもある。

◆先頃放送されたTVドラマ「いいひと」の主人公が自分の信念を主張する台詞の中で「まわりの人の幸せが自分の幸せです」と生き生きと語り切る様に、宮沢賢治の「世界がぜんたい幸福になりないうちは個人の幸福はあり得ない」という法華経を命とし不軽菩薩のように生きた精神を彷彿とさせるようなドラマであった。

◆この常不軽菩薩は「我深く汝等を敬い決して軽くみたり、あなどつたりはしない。あなた方は皆菩薩の道を行じて仏様になられる方であるから」と誉め称え丁寧に礼拝した。

この行為にたいし心不浄な人々は怒りを生じ、悪口をいったり、杖や棒、瓦石を以て打ちすえるとも菩薩は合掌礼拝を続ける。

◆日蓮大聖人も「一代の肝心には法華経、法華経の肝心は不軽品にて候なり。不軽菩薩の人を敬いしはいかなる事ぞ。教主釈尊の出世の本懐は人の振る舞いに候けるぞ。(崇峻天皇御書)」とお示し下さっています。
◆この不軽菩薩は、人はみな仏の種を宿しているから、その尊い仏性を磨いてゆくようにと人々に仏性に対する自覚と開発を促されてやまないものである。

合掌

(俊)

立教開宗七百五十年慶讃 日蓮宗中央大会——発願の集い——



題目旗が林立する舞台



中央に安置された宝塔

立教開宗七百五十年慶讃 日蓮宗中央大会—発願の集い—が去る五月二十八日(水)午後一時より、横浜アリーナを会場として開催された。平成十四年に御迎えする立教開宗七百五十年御正當をめぐり、「誓願」をテーマとして布教伝道に取り組み宗門挙げての発願の集い。

爽やかな五月晴れに恵まれ、全国各地より僧侶・檀信徒およそ一万三千名が統々と受付を通り、全国各教区の席割りに従って入場。

会場中央舞台の中心にお題目の宝塔(四面お題目)が安置され淡い照明に荘厳な雰囲気をかもし出している。

一時開会、宗歌「立ち渡る」斉唱に続き、岩間湛正宗務副総長が力強く開会を宣言。

会場に大聖人の御生涯から立教開宗までの御生涯を語るナレーションが流れ、大型画面に旭が森からのぞむ旭日、大聖人銅像が写し出された。向う正面には和讃を拝唱する檀信徒二、三〇〇名が行衣、団扇太鼓を手に一糸乱れず「日蓮聖人奉讃歌題目」を拝唱、感動の輪が広がる。一つには日の本の 安房の長狭の

小湊に誕生なされし 高祖日蓮 南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経、法華和讃は独特の調子、節回し、詞を現代に伝え、尚、活々と人々の心をつつ。

レーザー光線の赤・青・緑などの光線が宝塔を中心に照射され、幻想的な世界が湧現する。やがて闇を切りさく笛の音と共に法華を表す激しい太鼓。急調子の笛と太鼓の演奏は大聖人の法難を象徴するかのようだ。

四大法難、佐渡、身延御草庵、久遠寺、身延下山、御入滅を経、再び清澄寺旭が森、誓願の燈が映像で写し出され、

「この誓願こそ立教開宗七百五十年を迎える私たちひとりひとりの心に灯すべき大聖人の誓願そのものなのです。この決意のこもる誓願の燈をただ今この会場に運んで参りました」

宝塔上空に円錐レーザー、平行レーザー、ムービングスポットを使った幻想的な雰囲気の中、誓願の燈を先頭に田中日淳管長現下、式衆百二

十名が初伽陀と共に入場、三宝礼、散華、対揚に続き管長現下慶讃文。田中管長現下は慶讃文の中で、「我等一同、強盛の菩提心をおこして等しく法華経の御題目を一心に唱えひろめん。我等一同、信行修行に励み、法華経を広く説き示さん。我等一同、立正安国の精神を世界に伝え、社会の平和と人類の幸福に尽さん」と発願の意を示された。ここに集う全ての宗徒が発願の燈を信心の奥底にともした事であろう。

読経の後修法師三百名が中央舞台を囲み、修法師師林海雄師が宝塔に進み、木剣修法を行った。

力強い木剣、修法師の唱える肝心の梵音が会場にこだました。

管長現下による頂戴経の後唱題、異体同心に唱えられるお題目が会場を包み、感動が伝わる。

再び和讃に移り聖詠を奉唱、四弘誓願をもって法要を終了、引続いて、永井宗務総長が挨拶に立ち、「濁世末法といわれる現代社会に生きる私たちは、宗祖が立教開宗されたお心持ちを体して未来万年にお題目を弘める誓願をさらにおこしていこうではありませんか。」

管長現下の示された慶讃文を体し只今檀信徒、青年僧の表明された発願宣言をただちに各地において実行

に移していこうではありませんか」と呼びかけた。

誓願の燈分燈式、玄題旗授与に移り、十教区、七十四管区、海外開教区に分燈、同じく玄題旗が授与された。照明が徐々に落された会場舞台の闇の中に美しくかがやく誓願の燈が印象的であった。

舞台は一転力強い笛、太鼓と共に五組の万燈が入場、軽快で華やかな気分が会場に満ちた。

うちふる纏(まとい)、太鼓とカネ、笛のリズムにのりながらそれぞれ舞台にのびる宝塔を拝む。

厳肅と快適の対比、これも日蓮主義の特色であろうか。

楽しく快適な気分が高揚する中で発願大会の閉会が宣せられた。

年月日	氏名	宗派(役職)	門連役職	就任
平八・六・一七	永野正寛師	日蓮宗宗務総長	理事	就任
七・八	久保本日秀師	法華宗本門流管長	顧問	就任
六・一七	御牧日勤師	法華宗本門流管長	顧問	就任
九・二〇	井上日慶師	本門佛立宗講有	顧問	就任
八・二六	田中香浦氏	本門佛立宗講有	顧問	就任
一一・一五	田中隆一氏	国柱会会長	顧問	就任
平九・一・一	嘉儀日有師	京都門下連合会長	顧問	就任
	金山日龍師	京都門下連合会長	顧問	就任
	佐藤智明師	京都門下連合会副理事長	理事	就任
	杉若忠隆師	京都門下連合会副理事長	理事	就任
	飯田信栄師	京都門下連合会副理事長	理事	就任
	杉若忠隆師	京都門下連合会副理事長	理事	就任
	牧野琢成師	法華宗陣門流宗務総長	常任理事	就任
	土屋善敬師	法華宗陣門流宗務総長	常任理事	就任
	布施慧光師	法華宗陣門流宗務総長	常任理事	就任
	佐古弘文師	法華宗陣門流宗務総長	常任理事	就任
一・二・三	山田信正師	法華宗宗務総長	常任理事	就任
	中山昭夫師	法華宗宗務総長	常任理事	就任
	山島敏義師	法華宗宗務総長	常任理事	就任
	山本学人師	法華宗宗務総長	常任理事	就任
三・五	上田浩岳師	法華宗真門流宗務総長	常任理事	就任
	吉田研宏師	法華宗真門流宗務総長	常任理事	就任
	堀内邦雅師	法華宗真門流宗務総長	常任理事	就任
	上田浩岳師	法華宗真門流宗務総長	常任理事	就任
	田中諱常師	法華宗真門流宗務総長	常任理事	就任
	水野智啓師	法華宗真門流宗務総長	常任理事	就任
三・二七	関口宏氏	国柱会	理事	就任
三・三一	淀野寿夫氏	国柱会	理事	就任

日蓮聖人門下連合会

目的
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

事業
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1. 祖廟護持の組織強化
2. 教育事業の提携
3. 布教の連合強化
4. 懇談会・研究会講演会等の開催
5. 各種出版物の刊行
6. 海外布教の提携及び交流
7. 対外的な各種の運動
8. その他

加盟団体

日蓮宗 法華宗本門流
 法華宗 法華宗陣門流
 本門佛立宗 日蓮本宗
 法華宗真門流 本門法華宗
 国柱会 日本山妙法寺
 京都門下連合会

あなたが見たこともない風景がある。
体験したこともない感動がある。
味わったこともない味覚がある。
想像したこともない出会いがある。
「ないか」がある旅へ
東急観光がご案内いたします。

21世紀へ繋がる旅の案内。ようこそクルーズ

■団参旅行には東急観光をご用命下さい。
8営業本部・国内150支店・海外23事業所がお待ちしております。

本社・団体顧客部
〒153 東京都目黒区東山3-8-1
電話 03-5704-3761

北海道営業本部・販売課
〒060 北海道札幌市中央区北二条西2-15
電話 011-241-0303

東北営業本部・販売課
〒980 宮城県仙台市青葉区中央1-6-18
電話 022-263-1711
(青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県)

関東営業本部・販売課
〒153 東京都目黒区大橋1-5-3
電話 03-5489-6777
(茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・神奈川県・山梨県・静岡県・熱海市)

東京営業本部・販売課
〒153 東京都目黒区大橋1-5-3
電話 03-5489-6760
(東京都・神奈川県横浜市・川崎市)

中部営業本部・販売課
〒460 愛知県名古屋市中区丸の内2-17-18
電話 052-232-1721
(愛知県・富山県・石川県・福井県・長野県・静岡県静岡市・浜松市・三重県)

関西営業本部・販売課
〒541 大阪府大阪市中央区瓦町4-2-14
電話 06-226-1090
(大阪府・滋賀県・京都府・京都府福知山市・兵庫県・奈良県・和歌山県)

中四国営業本部・販売課
〒730 広島県広島市中区立町2-27
電話 082-249-0109
(広島県・鳥取県・島根県・岡山県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県)

九州営業本部・販売課
〒810 福岡県福岡市中央区天神1-15-3
電話 092-712-2561
(福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県)

祈

立教開宗七五〇年

奉讃円成

日蓮聖人門下連合会



日蓮宗宗務院

管 長 田中 日淳
 宗務総長 永井 祥文
 宗務副総長 岩間 湛正
 総合企画部長 渡辺 清明
 庶務部長 栗原 正震
 財務部長 星 光諭
 教務部長 齋藤 邦昭

副法運通部長 小倉 光雄
 立教開宗七五〇年 新井 貫厚
 宗務副総長 石川 浩徳
 現代宗教研究所 上田 尚正
 国際開教室長 大乗 文延
 国際開教室長 堀江 宏正
 人権対策室長 与 浅井 玄裕
 参 与 三坂 恵人
 日蓮宗新聞社 三坂 恵人

〒146 東京都大田区池上1-13-11-15
 電話 〇三(三三九一)七七八(代)
 FAX 〇三(三三九一)七一八六

法華宗(本門流)宗務院

管 長 和田 日淳
 宗務総長 川口 日淳
 教学部長 圓 成
 財務部長 原 井 慈
 庶務部長 桃 井 晋
 教化部長 坂 卷 顕
 坂 卷 顕 導

〒170 東京都豊島区北大塚1-1-26-14
 電話 〇三(三三九一)四七五(代)
 FAX 〇三(三三九一)七九九四

顕本法華宗宗務院

管 長 吉永 日晴
 宗務総長 中山 昭夫
 宗務次長 山本 学人
 財務部長 白井 謙光
 布教部長 大川 定信
 教務部長 奥村 智学

社会部長 鈴木 無着
 庶務部長 三坂 岳忠
 主 事 山本 晃道
 多門 顕正
 津村 乗信
 小松 正学

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
 電話 〇七五(七九一)七一七一
 FAX 〇七五(七九一)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管 長 竹嶋 日香
 宗務総長 土屋 善敬
 宗務副総長 都 築 哲信
 庶務部長 佐 古 弘文
 教学部長 門 谷 東生
 教化部長 八 木 恵岳
 財務部長 八 木 恵岳

〒170 東京都豊島区巢鴨五-13-5-16
 電話 〇三(三三九一)七二九〇
 FAX 〇三(三三九一)〇二二一

本門佛立宗宗務本庁

管 長 井上 日慶
 宗務総長 梶 本日裔
 宗務副総長 小 山 日誠
 宗務副総長 笹 田 日昌
 宗務副総長 佐 藤 政司

宗務本庁役員一同

〒602 京都市上京区御前通一条上る東堅町一〇番地
 電話 〇七五(四六一)一五六(代)
 FAX 〇七五(四六一)五五九九

日蓮本宗宗務院

管 長 嘉儀 日有
 宗務総長 佐藤 智明
 宗務副総長 原 眞昭
 教学部長 原 眞昭
 財務部長 柳 下 義眞
 法務部長 高橋 寛承

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
 電話 〇七五(七七二)三三九〇
 FAX 〇七五(七七二)五九一四

法華宗(真門流)宗務院

管 長 真枝 日世
 宗務総長 吉田 研宏
 宗務副総長 上 田 浩岳
 庶務部長 上 田 浩岳
 教学部長 辻 本 寛孝
 教化部長 寺 田 完英
 社会部長 中 西 順英
 財務部長 水 野 智啓

〒602 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町三三〇
 電話 〇七五(四四一)五七六二
 FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗宗務院

管 長 松本 日望
 宗務総長 高 辺 信幸
 宗務副総長 信 隆 允忠
 宗務副総長 増 田 隆雄
 宗務副総長 藤 井 宏長
 宗務副総長 土 畑 信教
 宗務副総長 音 羽 隆全
 宗務副総長 持 地 光学

門連常任理事

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
 電話 〇七五(四五二)三五二七

宗教法人 国柱会

会 長 田中 暉丘
 理 事 長 三 田 道弘
 副 理 事 長 入 江 克郎
 副 理 事 長 大 橋 邦正
 門連常任理事 大 橋 邦正
 門連理事 淀 野 寿夫
 本部事務局長 石 見 良教

〒132 東京都江戸川区一之江六一一九-118
 電話 〇三(三六五六)七一〇(代)
 FAX 〇三(三六五六)九九八〇

京都日蓮聖人門下連合会

会 長 金山 日龍
 副 会 長 松 本 日望
 理 事 長 杉 若 惠隆
 副 理 事 長 飯 田 信栄

京門連事務局
 〒606 京都市左京区三条通川端東入大菊町
 日蓮宗本山頂妙寺布教会館内
 電話 〇七五(七六二)二四一八
 FAX 〇七五(七五二)九三三八

日本山妙法寺

首 座 上野 行量
 長 老 塙 行幸
 長 老 石 山 善邦
 日印サルボヤ交及
 会会随發行編纂人 今 井 行順

〒542 大阪市中央区南船場一-13-11
 電話 〇六(二六二)三三二六

天鼓出版発行編纂人 松 谷 被 鏡
 日本山妙法寺事務局
 〒150 東京都渋谷区神泉八-17

共通の課題を探る

共にお題目を唱えよう

A 午前中の会議の皆様のご意見を集約いたしました。第十六号の「門連だより」を八面建てとして、試みに編集委員の皆さんに「日蓮門下共通の課題を探る」と題して、立教開宗七百五十年に向かつて、何か我々は取り組むべき共通の課題があるんじゃないかということを中心に、匿名の座談会ということで、腹藏なく、ご自由に皆さんの描いている夢というか、何でも結構ですから、これから小一時間、ご意見を述べていただきたいと思っております。

七百遠忌の時は日蓮聖人展、日蓮聖人劇、オラトリオ日蓮聖人の演奏発表、日蓮聖人門下青年の船といったふうに、対外的な接点を持った活動が門下連合会として行われたということ。

もう少しさかのぼりますと、創価学会等の動きに対して、門下連合として創価学会批判の講演会を日比谷公会堂で行ったり、そうした門下としての事業が行われたわけがございます。

七百遠忌が終わりまして、既に七年を経たわけでございますけれども、いまだ門下連合会として共通の課題、そして取り組むべき事業については模索しているところというのが現状ではないかと思っております。

一口に門下連合共通の課題といいますが、非常に幅が広いと思っております。切り口はどういうことでも結構でございます。ご提言でも、要望でも結構でございます。それはこう思うということでも結構でございます。ぜひご意見をいただきたいと思っております。

B 私は立正大学を卒業して、日蓮宗に身内が多いものですが、生まれは顕本のお寺でしたけれども、戦後のどさくさの中で一巡したわけですね。日蓮宗、法華宗ということで、ずっと、そういう内容を知らずに、自分なりにいろんな悩みとかいろいろあったもので……。たまたま、今回、日蓮宗新聞を拝

見まして、七五〇に向かつての日蓮聖人の大恩に報いる姿勢というものが伝わってきました。清澄への唱題行脚に参加させていただいたんですが、学生時代とか、日青で唱題行脚をしましたけれども、やはり日蓮聖人立教開宗七五〇に向かつて、今でなければできないというふうな気持ちになりまして、日蓮門下僧侶として、今できることといえば、まずお題目を唱えて一般の僧侶に伝えていく、体で示していく、法要とか、あるいはイベントというのは非常に大事でしょうけれども、やはりまず僧侶としての自覚というんですかね、二十一世紀に向かつて、私のところは何か宗だからというのでなく日蓮聖人の原点に帰るといいう意味で、まずできることといえば、門下で言えばお題目を通じてお互いが一緒にやる。それを皮切りに何か新しいものを生み出していく。そういう気持ちになれたらなと思うんです。

なぜ人が集まらないのか

C 私の立場は皆さんとちょっと違って、京都の門下連合会全体の中の編集委員で来ていますから、各所属団体としてはなくて、京都門連の話でいいですか。

A 結構です。

C 京都の門連というのは、五十年以上の歴史があるわけですが、近々、企画はかなり充実したものがあつたわけですが、京都門連の現在の悩みは、人がなかなか集まらないというのが非常に大きな問題があります。

京都門連は四大事業として、まず二月の降誕会、四月には本能寺横川で開宗会、夏八月には本能寺会館を借り切つての夏季大学、秋・十月のお会式を、何十年と続けてきているわけですが、何十年と続けてきているわけですが、どうも人がなかなか集まらなつてこない。

すね。

私、たまたま音楽のほうをやっていますけれども、日蓮門下という形でお世話になってはいますが、たまたまうちの本山においても、人が足りないときにお願ひしたりしているんです。できれば門下で、どなたかやっていらつしやる方がいたら、お互いに足りない分を助け合つていくとか、そういうことができればいいのではないかと思つております。

A ありがとうございます。たまたま日蓮宗北海道の松前法華寺の中里親正という方が、七五〇に向かつて報恩行というか、誓願行脚と申しますが、毎月一回、小湊から清澄へ一人で唱題行脚の誓願を立てられたんです。その趣意に賛同されて共にお題目を唱えようということ、顕本法華宗のお上人が共感をされて、体を使って、そういうことをやってみようということに参加された、その感想が述べられたわけですね。

確かに門下でお題目というものが、本当に共通の基盤であるわけですね。そうした極めて具体的な行についてのお話であつたわけですね。

これはやっぱり教師の門連に対する自覚がどれだけあるか。先ほど共通のお題目を通して布教展開という話がBさんからありましたけれども、京都門連の場合、教師の門連に対する自覚というものが、意識が非常に難しくなつてきています。例えば、この宗派にも関係なく、一つの大同団結だということ、これは理想でありまして、先般、京都の門下の青年会が集まつて、顕本法華宗の山本学人さんに講師をお願いして、大同団結、大同団結という話をすると、最後はやっぱりこたわつてしまつた。一つの組織にまとまるかという、なかなかそういうことは難しくなる。

でも、京都のええところは、そういった青年会組織があるということ、その青年会組織が門連の行事に参画してお手伝いをする。そして門

連の意識を高めていく。ここまではすばらしいんですけども、あとやっぱり檀信徒への布教というか、それがまだまだ意識が足りないんじゃないかなということですね。

だから、今おつしやつたいろんなことに参加しながら、門連の意識を

地道な行動で示す

D 私もBさんと同じ法華宗でございます。私もすけれども、実は今みたいな話を、木更津からここに来る間にいろいろ話をしていたんです。この日蓮門下連合会は日蓮宗さんが一番大きいわけですが、大小さまざまな教団の代表の方々がこつこつとお集まりのわけでございます。私が門連意識を強く持ちましたのは、先ほどCさんのほうから京都門連のお話がありましたが、私も七百遠忌のときは京都で修行しておりました。京都門連の唱題行に参加させていただいたということがありました。それで、ほかの門流の方とも交流があつて、非常に親しみがわいた。日蓮門下は顕本だけじゃなくて、日蓮宗さん初め本門さん、陣門さん、日蓮本宗さん、そのほか大勢いらつしやるんだなということ、そのときに初めて私も門連の一員という自覚を持ったわけでございます。

現状を見ますと、顕本はほとんどお寺の三の二ぐらいは千葉県に集中しているんですけども、その中でなかなか、ひとつの宗派としてまとまるとかやろうと思つたときに、どうしても自坊の法務優先で、とか、地域で動こうとした場合でも難しいという状況の中で、門下が一方向になつてしまつたというの難しさというんですかね、ですから、Bさんもそのジレンマというものを大変感じていらつしやつて、本当は自分の周りの仲間と一緒にやってほしい、そういうようなことはあるんじゃないでしょうか、それが、現状では自分の足元さえもまとめることが難しいような実情があるんですけども、京都門連さんのお話を聞いてい

高めていかないとけない。自分の宗派だけでやればいいというふうなつしやる門連の役員さんの会議なりですね、そういうこともいろいろあると思つてます。

具体的な話にならないんですけども、先ほどからBさんがおつしやつていられるように、まず我々の力のできるかということから始めることが一番大事じゃないかなと思つてます。

どう個人交流を深めるか

て、うらやましいなと思うのは、少なくとも京都というエリアに関しては、そういう組織ができていくというだけでも、私はすばらしいことだなと思つてます。

ですから、私も含めて、ここにお集まりの皆様方一人一人の自覚の中で、どのようにしてそういう話を自分の門流に持ち帰つて広げることができ

A ありがとうございます。ご発言に対して、私はこう思うということもあるでしょうから、何かあれば、それを中心にお話をしたいなと思つています。

E 先ほど編集委員で言いましたけれども、こういう会議ができるというか、話し合い、接する場はできているわけですから、これをもっと拡大したり、もっと深めたりするということ、元と思つてます。

それについては、やはり年に二回ぐらいしか接する機会がない、門連の編集委員のときも、みんなそれはいいことだとなるけれども、いろんな周辺の事情で、結果的には従来の方向になつてしまつたというの難しさ、個人的に交流することが、やっぱり長く続くことだと思つて、趣味が合うとかね、仏教と離れたところ、例えば音楽でジャズが好きだとか、車が好きだとか、絵が好きだとか、人それぞれそういうのがあつて、自分の立場を離れて、一個人としていろんな感性をぶつけ合つたりできると思つてます。

そういう意味で、やはりそこがべ

るかということも出てくると思つてます。そしてまた、我々の上にいらつしやる門連の役員さんの会議なりですね、そういうこともいろいろあると思つてます。

具体的な話にならないんですけども、先ほどからBさんがおつしやつていられるように、まず我々の力のできるかということから始めることが一番大事じゃないかなと思つてます。

極端な話、ここにお集まりのメンバーの中で賛同してくださる方が、何人かを引き連れてできることがあれば、それが第一歩ではないかなと思つてます。七五〇まで時間がありまして、そういう地道な行動の中で、理屈よりは行動だということ、体で示す、そういうことから始めていつたらいいのかなと思つてます。

一スになって、その先の話だと結構わかるんですけど、あくまでも表面づらで接してはいますから、なかなか踏み込めない。だから、個人交流をどういう形で……。それは個人個人がやればいわけですけど、仲人さんがいたり、結婚相談所があるみたい、つなぎ役が必要なのではないか。この場がつかないから、おののが宗派を超えて個人的に行つたり来たりね、寺と寺とか僧侶と僧侶という意識じゃなくて、一人の人間と人間が個人交流することが、結果的に自然と交流になつて、それが今度には信徒も連れていってね、普通だつたらほかのところには行かないんだけれども、そういうことで檀家さんまで引き連れて、お互い行つたり来たりする、そういうことが紹介されていって、こういう交流もしているんだなと。それが草の根的に実際の門連の活動の深みを増すというか、着実にしていくんじゃないか。編集委員だから、きょうは編集のことだけで、それ以外のことはどうふに、どうしても常識でいくと、そうなんちゃいますけれども、今回みたいに、こういう座談会みたいに

下門蓮日

編集委員座談会



議論白熱した編集会議。今後もどしどし行いたい。

いけばいいわけです。約束をすれば、すぐは実現しなくても、行きますよと言ってれば、それは三年後に行くかわからない。そうやってお互いが行き来し合おうという口約束だけでもいいれば、「近くに来たから」とか、何かのときにに行けると思うんです。

そういうふうには、個人的な立場から入っていく。せつかくこういう場があるわけですから。そうすると、もう少し突っ込んだこと、あそこがこうやっていらつしやる、じゃ、今度うちの法要のときお願いしようとかかってね。その人がどういうことをして、どういう考えかというの

は、やっぱりその人を理解しないと、お願いするわけにもいかない。お互いが理解し合うためには、個人サイトの交流の機会を一回でも多くつくってね、また相手の陣地を訪れないとわかんないですから。だから、会議でも、今度は千葉でやろうとかね、北陸のほうでやろうとか、東北のほうでやろうとか、そういう形にしていくことが、まず最初じゃないかと思えます。

画一的にやっても、行き詰まっている時代ですから。組織はある、ちゃんと役職もある、企画もある、すべてのルールはできているんだけど、動かないというのは、本当に個人と個人がぶりかり合えない、

お互いの領域を破らないという、ちょうど都会の電車の中みたいなもので、同じ乗り物に乗っているんだけど、お互いに干渉しない。相手を受け入れたくないから眠つたふりをするとか、本を読むとか、そばにいるんだけど相手を受け入れようとしな

いわけです。そういうことで、いかにしてお互い受け入れ合うかということが出発点だと思います。その先に、歴史がいろいろあって、どうして共にできないかということがある。先輩はそうだったけど、我々はそれでいいの

かどうかということですね。法務を通じては、かなり交流というか、それはあると思うんですよ。ただ、Bさんがおっしゃったように、何か一つそういうものを通じて門下と一緒にやるといようなことは、あまり聞かないんですよ。

法要とかね、法務で交流はダメなんです。バイクが好きだとか、車が好きだとか、ジャズ音楽が好きだとか、そういうところまでつながっていかないと。法務だと個人の都合だけではないか。やっぱりいろいろなかことがかかりますね。

そう、「近所まで来たから寄つたよ」みたいなね、気軽にそういうような交流ね。京都さんの門下青年会の交流の輪は深いですね。青年僧の交流というのは大事だと思います。それも他門流との。京都はそれがすばらしいですね。ときに、そうやって交流しているから、その作業もスムーズにいくわけでしょう。

コンピューターの最近のインターネットね、ホームページに日蓮門下の学習会があるとか研修会があるとかを入れるおきますと、一般の人も今やっていますから、今度は何かなと思ってる。

門連のホームページをつくりましょう。私もコンピューターの仕事をしています。坊さんだけでなく、外部の人の悩みごととかね、そういうのを、こちらも整理しなければ大変ですけどね。

個人のホームページだと、アクセスするまでに疲れてしま

うから、ある程度大きいものだとね、窓口になるからね。今はインターネットは個人レベルなんじゃないから、そこにたどりつくので大変だからね。日経新聞だって、その中で自分

の好きなところにたどりつくのに、始めて一カ月ぐらいの人だと嫌になっちゃう。自分の見たいところまでに行くまでにはね。

人との交流というのが一番中心になるというわけですが、やっぱり何か企画がないとなかなかうまくいかないのではないかな。私は浅草ですけども、浅草の有名な鬼子母神さんとか何軒かありますけれども、仏教関係でちょっと会ったことがありません。

それで、ひとつの企画ということですけども、私もどのもやっているのは、各地区に何かできないのかなという頭があるんですけども、これは失敗しているわけですね。Aさんの話にもあったように、七百遠忌というか外的な一本の柱も大事なんですけれども、その前に内的なものもあつたんです。

わたしも門連だより十四号に書かしていただいたんですが、六百五十年遠忌のときは、各派の合同講習会を開いて、門下統合の機運がかなり出回つたんです。

地区で講習会なり、あとはさつきお話のあつたような、ああいう講習会というものは差しきりがあるんで、私なんかも管区でやっています、年五回、管区合同ですけども、いろんな方を引っ張ってきて、今のところは僧侶だけでやっている。パンフ、教箋をつくりまして、ことしの後半ぐらいからは檀信徒も巻き込んで、檀信徒がいふん入っている

ここに集まっている方々は、皆さんお題目で統一されて集まってきたと思うんです。言いたいのは、それで集まってきた人た

の好きなところにたどりつくのに、始めて一カ月ぐらいの人だと嫌になっちゃう。自分の見たいところまでに行くまでにはね。

清澄まで上げるかという話がありまして。距離が短いから、できたら鎌倉から清澄のほうがいいかもしれないですね。

今度の開宗七百五十年では、何かできないかな。できれば共同講習会でも……。何しろまず顔がわからないと話になりません。

今お話の地方門連というか、各地区の結成推進というの、中央の門連が新しい予算的な面でも、企画の面でもなかなか動きがとれない現状の中で、北海道門連と大阪門下懇話会というのが結成しました。やはり地区門連というか、そういうものができれば、それぞれやはり年間の予算をつけ、行事を考え、合同講習会をやったり、ずいぶんやっていますよ。北海道門連、大阪門下懇話会、まだ門下連合会に正式加入には至っていませんけれども、それなりにやはりきちんと年間の活動を行っているわけです。

ですから、必ずしも中央が活動しなくても、今、Fさんが言うように、拠点、拠点に門下連合の地区門連をつくっていくというの、一つの方法として、お金のかかる問題でなくて、その地区が活性化すればいいわけなんです。それは一つのご意見かなと思

目的にも書いていますよ。地方門下連合会のこと……。

ちが、なぜ一般の方たちにご教区で折伏をなさらないのか。ここにいます方たちは、私を含めてそうですけども、既成仏教化されているんじ

ないか。七百五十年に向けて、私もそうですけども、一人を教化しよう、二人を教化しよう、そういう目的を持って七百五十年を迎えたい。私はそう思っている。

今、皆さんがお話しになったような意味で、一つ一つの交流ということですけども、将来を考えると、京都の門連の青年部の皆さんのように、若い人たちに、ひとつ焦点を当てていくべきではないか。

かつて「青年の船」をやったわけですけども、その後何もやらなくて立ち消えになってしまったんですけど、あれは相当きめ細やかに継続的にやっていたら、大きな核になったと思うんです。今からでも遅くないから、乗船した人たちに呼びかけてはどうか。住所も変わっていると思えますけれども、七百五十年に向けて、やはり若い人の結果といううなものも、希望のある明るい事業になってくると思うんです。いろいろ若い人の結果、どういう企画をするか、具体的に考えていきたいですね。

私共、国柱会なんですけれども、在家仏教で歴史が百年たつていまして、三代目、四代目になってきていますから、若い人を育てていくのは非常に重大な課題になっておられます。何としても若い人を育成しなきゃいけないという大きな課題ではあるんですけれども、難しいことです。

一方、国柱会には宗門統一という大きな主張があるわけですね。祖廟中心宗門統一というのは国柱会の一つのモットーでありまして、本当に日蓮聖人御門下の日蓮聖人のご教示のもとに一つになれば、国柱会は使命をはたし会の組織は要らないわけですから、解散するということになっているんです。一日も早く解散するために頑張っているようなものではないです。なかなか現実にはそうはいきません。

田中智学門下にも諸団体がありまして、ご存じの方もいるかと思えますけれども、青年が集まり田中智学門下青年協議会というのですが、二十年前につくつたんです。青年だけでも一緒にいるといういろいろやろうじ

やないかということ、二十年前に結成されて、私も委員長を務めたことがあります。

しかしながら、大きな組織にはなり得ないで、人数的には小さいんですけども、何か対外的な、対社会的な運動もしなければいけないという長年の懸案がありました。私が委員長をやっているときに、何か実現しようじゃないかということ、いろいろ相談の結果、今、四月二十九日「みどりの日」になっていまして、ご存じのように、戦前は天長節、戦後は天皇誕生日だったわけですけども、それがわけのわからない「みどりの日」となっていますんで、それを何とか「昭和の日」に変えようということ、田中智学門下青年協議会が「みどりの日」を「昭和の日」に改名する運動というのを、平成五年に起こしたんです。

今も一生懸命にやっていますけれども、なかなか小さな団体がやっていたんじや大きく発展しませんでした。国民的なネットワークをつくるということ、昨年十二月から「みどりの日」を昭和の日に改める国民ネットワーク」という組織ができ上がりました、外部の人たちにも入っていただいて、田中智学門下青年協議会から手が離れたような形ですけども、しかし、中核は我々が中心になって、今、大きく発展しかけているという、非常にうれしい状況になっています。

今年の四月二十八日に東条会館で前夜祭・国民集会のイベントをやりました。満員になって非常に盛会だったんですけども、産経新聞が非常に好意的に取り上げてくれて、だんだん社会的な認知の広がりができてきたという状況です。大きく国会議員にも働きかけて、何とかこれを現実しようという運動を展開中で、田中智学門下青年協議会がそうした運動で結束しているわけです。

それと同じように、日蓮聖人門下連合会を集め協力して、マスコミに取り上げられるような社会的な運動をやりたい。それを掘り起こしてやるならば、それが一つの大きな活性化となつて、門連自体も動かせるようなパワーみたいなものが出てくるような気もするんです。(つづく)

対社会に向けた運動を

ここに集まっている方々は、皆さんお題目で統一されて集まってきたと思うんです。言いたいのは、それで集まってきた人た



祈・立教開宗七五〇年 奉讃円成

<p>日蓮宗総本山 身延山久遠寺</p> <p>〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延 電話 〇五五六六(二)一〇一一 FAX 〇五五六六(二)一〇九四</p> <p>法主 岩間 日勇 総務 藤井 教雄 役員 一同</p>	<p>日蓮宗大本山 池上本門寺</p> <p>〒146 東京都大田区池上一一―一 電話 〇三三七五(二)三三三二 FAX 〇三三七五(二)三三五〇</p> <p>賞 首田 中日 淳</p>	<p>顕本法華宗総本山 妙満寺</p> <p>〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一 電話 〇七五(七九)七二七二 FAX 〇七五(七九)七二六七</p> <p>賞 首 吉永 日晴 総務 中村 通義 執事 津村 乘信 執事 安東 靖弘 執事 山本 晃道 執事 小松 正学</p>	<p>法華宗(陣門流)総本山 本成寺</p> <p>〒955 新潟県三条市西本成寺一―一 電話 〇二五六(三)〇〇〇八</p> <p>賞 首 竹嶋 日香 執事 長 真保 行宣 執事 西山 英仁 執事 平井 良光 執事 鈴木 木顕 正 執事 栗田 孝之</p>
<p>法華宗(真門流)総本山 本隆寺</p> <p>〒602 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町 電話 〇七五(四四)五七六二 FAX 〇七五(四四)五六六六</p> <p>賞 首 真枝 日世 執事 長 岩崎 峻暉 執事 笹木 研秀</p>	<p>本門法華宗大本山 妙蓮寺</p> <p>〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五 電話 〇七五(四五)三五二七 FAX 〇七五(四五)三五九七</p> <p>賞 首 松本 日望 執事 長 飯田 信栄 役員 一同</p>	<p>日蓮本宗 本山要法寺</p> <p>〒606 京都市左京区新高倉通橋上ル法皇寺町四四八 電話 〇七五(七七)三三九〇 FAX 〇七五(七七)五九一四</p> <p>賞 首 嘉儀 日有 大学 頭 丹治 日遠 執事 長 佐藤 智明 執事 原 藤 眞昭 執事 柳 下 義真 執事 高橋 寛承</p>	<p>本門佛立宗本山 宥清寺</p> <p>〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五一 電話 〇七五(四六)三二四六 FAX 〇七五(四六)三二四六</p> <p>住持 井上 日慶 二王 世禪 事務局長 小倉 徳治郎 信徒総代 小倉 徳治郎</p>
<p>立教開宗之靈地 出家得度</p> <p>日蓮宗大本山 清澄寺</p> <p>〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄 電話 〇四七〇九(四)〇五二五</p> <p>別当 杉山 日慎</p>	<p>日蓮宗大本山 妙顕寺</p> <p>〒602 京都市上京区寺ノ内堀川東入</p> <p>賞 首 山田 一光 執事 長 原 光司</p>	<p>日蓮大聖人御靈跡 日蓮宗大本山 本圀寺</p> <p>勅説にて京都に移遷の松葉ヶ谷草庵の靈跡</p> <p>賞 首 久村 諦道</p>	<p>日蓮宗大本山 北山本門寺</p> <p>〒418-01 静岡県富士宮市北山重須 電話 〇五四四(五八)一〇〇四</p>
<p>日蓮宗大本山 法華経寺</p> <p>〒272 千葉県市川市中山二―一 電話 〇四七三(三四)三三三三</p> <p>賞 首 長瀬 日還 執事 長 富田 義康 参事 与 田 董 同 関 智 清 同 新井 觀 同 植田 觀 同 植田 觀 同 廣野 順 同 土田 勝 宏</p>	<p>久遠成院日親上人御靈窟 日蓮宗本山 本法寺</p> <p>重文涅槃図長谷川等伯筆 名勝巴の庭本阿弥光悦作</p> <p>賞 首 金山 日龍</p>	<p>やくよけ祖師 日蓮宗本山 堀之内妙法寺</p> <p>〒166 東京都杉並区堀之内三―四八―八 電話 〇三三(三三)三三三三 ※平成九年度隨身生募集中</p> <p>山主 駒野 教格</p>	<p>日蓮宗本山 頂妙寺</p> <p>〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大楠町九六 電話 〇七五(七七)一〇五六二</p> <p>賞 首 土屋 学周 参事 与 山 完 同 同 田 智清 同 同 新井 啓宣 同 同 末吉 照源 同 同 藤井 陽雄 同 同 川合 知孝 同 同 二之部 孝</p>

門連時報

身延祖廟参拝・ 理事会開催される

日蓮聖人門下連合会加盟各派代表者による身延山の祖廟参詣・理事会が、六月十二日行われた。

当日午後一時、祖廟常唱殿に参集。永井祥文理事長を先頭に行列を組み、撃鼓唱題しつつ祖廟に進んだ一行は、永井理事長を導師として至心に報恩謝徳、異体同心の法味を捧げた。続いて御草庵趾を参拝した。

下部ホテルに移動、午後二時四十分より理事会開催。全員自己紹介の後開会。

平成八年度事業報告、平成八年度決算、平成九年度予算をそれぞれ承認、地方門連活動については京都日蓮聖人門下連合会報告を杉若恵隆師が、北海道日蓮聖人門下連合会報告を田中文教師が、大阪門下懇話会報告

告を木下恵温師がそれぞれ行った。京都門連における降誕会法要、開宗会、お会式法要の奉行、夏期大学の開催など、門下各派協力一致のもので行われている実情が報告された。

北海道門連は昨年役員改選が行われ、未だ実動に至っていない現状と共に、将来に向かっての抱負が語られた。

大阪門下懇話会も去る五月二十二日役員改選（三田村理事長御退任、木下理事長御就任）が行われた事、また研修会、報恩行事、親睦総会など年間行事が定着している実情、とくに昨年六月京都本山バスツアーの実施（一五〇名、バス四台）をふまえ、祖廟参拝を目標としたいこと、同じく八月十一日国柱会大橋富士子講師を招いて「宮澤賢治と法華経の世界」



日蓮聖人門下連合会祖廟参拝 平成9年6月12日

と題し講演をいただいた事、十月二十六日には第四回報恩お会式を実施した事、加盟団体九・会員一七二名の現況が報告された。

立教開宗七百五十年慶讃記念事業に關しては、懸案の国立東京博物館を会場とする日蓮聖人門下文化展（仮称）企画について、更に継続して問題点を煮詰めていく事が確認された。

出席者（敬称略）永井祥文、渡辺



霊山橋を渡り祖廟へ向かう。

京都日蓮聖人門下青年会 平成九年度総会開催

京都日蓮聖人門下青年会（赤田泰宏会長―法華宗本門流）の平成九年度総会が、一月二十九日太公で開催され、各宗各派会員十五名が参加した。

平成九年度会務計画が報告され、門下連合会の各行事参加を中心に、唱題行脚、勉強会、バレーボール大会、OBとの懇親会、研修旅行等が

了承され、今後の門下青年会の大同団結を誓い合い懇親を深めた。

平成九年度役員は、幹事長―赤田泰宏（法華宗本門流）、副幹事長―梅本光祥（日蓮宗）、副幹事長―赤塚高明（法華宗陣門流）、会計―安東靖弘（顕本法華宗）、庶務―嘉儀吉裕（日蓮本宗）、庶務―藤井照源（日蓮宗）、幹事―阿南光節（本門法華宗）、幹事

京都門連開宗会 比叡山大講堂で奉行

京都日蓮聖人門下連合会（杉若恵隆理事長―日蓮宗）は、四月二十六日比叡山延暦寺大講堂に於いて、宗祖日蓮大聖人立教開宗会を奉行し、僧侶檀信徒約百五十名が参加した。

参加者は、本山頂妙寺に集合バス三台で出発、延暦寺に到着後、法華宗真門流学林長上嶋智岳師による「一日即一生」の講演を聞いた。

上嶋師は、「人生は色んな生き方があるが、すべて一日一日の積み重ねである。一日の大切さを常に感じ、

お題目の「商標登録」について

昭和六十一年四月四日、特許庁へ某酒造会社より、商標登録願が提出された。指定商品は酒類で、商品名は「南無妙法蓮華経」である。しかし、同年十月二十六日には特許庁審査官より拒絶すべきものと認められ、却下される。理由としては、「日蓮宗の三大秘法の一つである南無妙法蓮華経を営利を目的とする商標として登録することは、社会の一般的道徳観念に反するものであって、同宗派に対する尊崇の念を失わせるものであるから、これを登録することは適当でないものと認める」と述べられている。誠に公正賢明な判断といえるが、これを不服とした出願人は、再三に亘り意見書を提出し、平成九年三月十九日付商標としての認可が下りてしまった。理由は、①本願商標をその指定商品について使用することが宗教に対する冒瀆であることではない。②公の秩序又は善良の風俗を害する恐れがあることではない。③公の秩序又は善良の風俗を害する恐れがあることではない。④公の秩序又は善良の風俗を害する恐れがあることではない。⑤公の秩序又は善良の風俗を害する恐れがあることではない。⑥公の秩序又は善良の風俗を害する恐れがあることではない。⑦公の秩序又は善良の風俗を害する恐れがあることではない。⑧公の秩序又は善良の風俗を害する恐れがあることではない。⑨公の秩序又は善良の風俗を害する恐れがあることではない。⑩公の秩序又は善良の風俗を害する恐れがあることではない。



京都門連青年会総会



京都門連開宗会

天台山門宗本山三井園城寺を拝観、立教開宗会の日程を終了した。（藤井照源）

好評発売中!!

団体参拝・記念行事等にぜひご利用下さい

750年慶讃記念行衣

弊社では、平成14年(2002)の立教開宗750を迎えるに当たり、田中日淳管長猥下のご協力を仰ぎ「記念行衣」をご用意いたしました。

1着; 5,000円

この他、
行衣 1着; 5,000円
岩間日勇法主猥下ご染筆

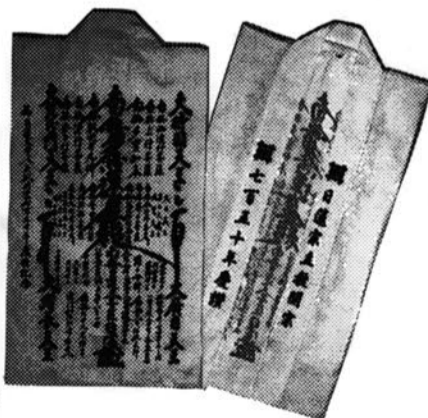
白無地行衣 1着; 3,000円

もございます。

サイズはすべて下記の通りです。

(L) 衿75cm・丈85cm

(M) 衿65cm・丈70cm



檀信徒肩章

2,700円

(お題目入り)

3,000円

新規格幅 7cm

日蓮宗宗制改定にともない、幅4cmを7cmに変更いたしました。

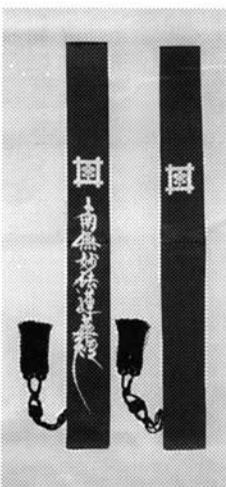
色/こげ茶

紋/井桁に橘

素材/正絹

(山号・寺院名染め)

抜きは料金別途



御首題帳

1,500円

日蓮宗全国五十六本山の貫首さま直筆のご首題をあますところなく掲載しました。また、予備紙付きですので、一般寺院参拝の折にもご朱印をいただけます。

B6判変形(18×12.2×2.3cm)

※送料は別途請求となっております



お問い合わせは

日蓮宗新聞社

〒146 東京都大田区池上7-23-3

TEL 03-3755-5271(代表), FAX 03-3753-7028

各派・教団 短信

日蓮宗

【平成9年9月2日・3日と、新宿の常円寺に於いて、第2回海外布教セミナーが開催される。参加する約30名の日蓮宗僧侶に、世界に広まりつつある日蓮宗の海外開教、特に実際に米国ボストンで開教にあたる外国人僧侶による、新地開教についての講義が行われる。】

【76定期宗会にて、日蓮宗所定の加行所は、正中山法華経寺内にこれを置き、加行の場合は法華経修行堂並びに遠東院行堂にこれを設けることが議決された。】

【日蓮宗宗務院内の機構改革を行う為、外部より専門会社のビジネス・コンサルティングを頼み、院内のよりよい職場の環境づくり及び、職員志気向上を目指す。】

【立教開宗七百五十年慶讃事業の一環として、清澄寺に記念研修会館が建立される。着工予定は今年10月頃の子定。】

国柱会

【妙宗大靈廟創建七十年(明後年春)をめざして結核拡充運動を展開中。】
【「正しい宗教Q&A」勉強会毎月供養会後に開会。】
【3月7日、国柱会中央連絡協議会で武蔵野御陵清掃奉仕。】
【4月3日、国性文芸会により靖国神社に芸術奉納。】
【4月6日、恒例の「申孝園桜まつり」開催。】
【4月28日・29日、第67回「身延登詣団」実施。長年、登詣団を統率した田中香浦団長の帰寂にともない新団長に田中輝丘会長が就任。一日目、身延大祖廟前で立正会慶讃法要厳修。二日目、思親閣登詣、山頂

で報恩集会。両日も団長より記念講演。】
【5月10・11日、中連婦人部蓮華サークル主催で花巻へ「宮沢賢治に逢う旅」。同サークルは例会で賢治の童話を学んでいる。】
【6月7・8日、講師補養成研修会並びに任用試験。】
【全国各地地方連合会局主催で日蓮主義講習会並びに儀典研修会を開催。】

京都門下連合会

【平成9年度会長 貫首金山寛成現下、副会長 大本山妙蓮寺貫首吉村日義現下、理事長 日蓮宗京都府第一宗務所長杉若恵隆師、副理事長 大本山妙蓮寺執事長飯田信栄師に決定する。】

【1月22日理事会。於本能寺会館、平成9年度役員確認・平成8年度決算報告・平成9年度会務事業計画・平成9年度予算案・平成9年度総会の件・平成9年度降誕会の件。】

【2月16日総会・降誕会。於本山頂妙寺。平成9年度役員紹介・平成8年度会務報告承認の件・平成8年度決算承認の件・平成9年度会務事業計画の件・平成9年度予算案承認の件。降誕会 大導師は本山頂妙寺貫首土屋学周現下、法話は本山本陣寺貫首福井日進現下、おどんの供養あり。】

【3月14日理事会。於本山頂妙寺、開宗会の件・夏季大学の件。】
【4月26日開宗会。法要 比叡山大講堂に於いて奉行、大導師は本山本陣寺貫首金山寛成現下、法話は法華宗真門流学林長上嶋智岳師。法要後横川定光院を参詣、天台寺門宗総本山三井園城寺を参拝する。】

【尚、今後の予定として、8月25日本能寺会館に於いて夏季大学、10月4日(場所未定)御会式がある。】

顕本法華宗

【4月30日、「第52臨時宗会」新内局発足に伴う人事案件など審議。】
【5月10・11日、総本山妙満寺春季大法要 阪神淡路大震災第3回忌追悼法要、宗祖開祖報恩法要など2日間六座の法要を厳修し、全国各地より参集の僧侶・善男善女の唱題の音が鳴り響いた。】

【6月16日、「東部連合会僧侶講習会」品川天妙園寺において法味言上の後、松原泰道師を講師にお招きし、

法華経人生論のご講義を頂いた。】
【6月21・22日、「三派統合学林」顕本・陣門・真門の三派による統合学林が、品川天妙園寺において開催。】
【6月25・26日、「西部講習会」。】
【7月25・28日、「顕本青少年錬成会」総本山妙満寺を会場に、全国の小学校高学年・中学生を対象に「助け合う心を大切に」を主題において、約百名の子供たちが小さな修行を体験した。朝の勤行・清掃から始まり、信行、唱題行から市内見学、キャンプファイヤーに至るまでバラエティに富んだ内容となっている。】

日蓮本宗

【例年、第二祖日興上人御命日の2月7日に行われている「教師研修会」が、新築成った庫裏「大書院」に於いて実施された。】
6日の御夜夜法要に於いて、7日朝勤時に法味を言上し御報恩の誠を捧げ、続いて午前9時より丹治日遠台下による「御義口伝」についての御講話を拝受し、昼食後散会した。】
【2月27日、第六十四回宗会・門末会が、本山要法寺「大書院」に於いて開催された。】

平成7年度決算承認、平成9年度事業計画案、同予算案等が審議され、それぞれ承認された後、現当局辞任と、次期当局選任の議題に移り、現当局を代表して宗務総長より、任期を一年余り残してはいるが、大事業の完了を期に辞任したい旨の発言がなされ、これを受けて宗会議員の中から五名の選挙委員が選出され、選挙の体制に入った。】

【5月8日午後一時より、本山要法寺御開山日尊上人第六百五十三回御報恩法要が厳修された。これに先だって午前10時より第26回要法護持会全国分会長会議が開催された。】

法華宗真門流

【2月27日教区布教師会、布教師会を開催。本年度の布教計画を作成。3月27日新内局発足、宗務総長に吉田研宏師就任される。3月26日より三日間、12名の寺院子弟が参加し、僧風林が開催された。4月6日総本山本陣寺第百世入歴法燈継承式が挙行され、大島日護聖人(金沢円融寺住職)が入歴された。4月8日

より27日まで、春季学林を開講、本科・専門科それぞれ講座が開かれた。4月11日より三日間、総本山本陣寺において、千部会が厳修された。】
【5月26日・27日、第一教区では「檀信徒の集い」を開催。伊勢内宮・熱田神宮に参拝後、比島観音前にて戦争犠牲者英霊等追悼回向、隣接の「殉国七士の墓」に参拝、50回忌正當回向法要奉修す。5月29日第三教区では、教師講習会が開催され藤井文英師より(福井・本蔵寺住職)、「新宗法について」と題した講義を受けた。6月15日第二教区では、檀信徒研修会が開催され、布教師井上隆宏師の「日蓮聖人と御法難」と題する法話、北陸カルチャークラブ代表、栗田隆司師の「ことば、心の花」と題する講演が行なわれた。6月20日第十三回真門流講習会が総本山本陣寺客殿にて開催され、「宗門三教区に於ける教線拡張時代」と題して、宗務総長、吉田研宏師の講義及び「三秘と本果実証」と題して宗学研究所々長、林日圓現下の講義が行なわれた。】

法華宗陣門流

【5月22日より26日までの五日間にわたり、新潟県三条市総本山本陣寺に於いて、日印聖人開創七百年大法要が執り行われた。22日には記念事業として行った山門改修工事の竣工式、記念事業功労者表彰、23日には陣門講御歴代法要、24日には諸堂祭、25日には永代祠堂納骨諸堂特別回向、他宗来賓者臨席、26日には戦没者追悼法要、交通安全、世界平和祈願。以上の日程で執り行われた。御開山日印聖人の霊跡、聖白牛が座り込み清水が湧き出て青蓮華が咲いたといわれる、牛池「青蓮華院」を中心とし、宝物館に於いて「日印聖人足跡展」と称し、日印聖人ゆかりの御寺院に御協力を得て、ビデオの上映並びに展示を行った。25日の他宗来賓には、顕本法華宗管長吉永日晴上人、国柱会会長田中輝丘御夫妻、法華宗真門流総長吉田研宏上人、日蓮門下連合会理事長代理岩間湛正上人、池上本門寺執事長市川智康上人、日蓮宗新潟本覚寺様、天台宗青龍寺様、以上の方々の臨席を賜り、五日間の法要は盛大裡に執り行われた。】
【6月14日(土)・15日(日)三宗統合協議

学生講座(陣門・顕本・真門の三宗による統合学林)が顕本法華宗・品川天妙園寺に於いて開催された。講師は顕本法華宗宗教学研究所員・山形顕忠上人で、講題は「これからの檀侶の課題」である。(今井満良)

本門佛立宗

【仏立第22世講有日慶上人は、6月20日より7月5日の16日間、海外弘通拠点激励の御奉公としてブラジル11ヶ寺、アメリカコロサンゼルス親会場へ海外巡教に出かけられた。随行参詣は30名。今回の巡教では、ブラジル仏立宗開教導師・茨木日水上人の御27回忌(リンス大宣寺にて)ご法要が主目的。併せて来たる二〇〇二年にお迎えする高祖日蓮大士立教開宗七百五十年報恩の意義を伝弘浸透のため。】

【去る4月20日、京都本山有清寺の門祖日隆大聖人の御会式当日、特別の一座を設けて「立教開宗七百五十年報恩教化七万五千達成の為の全国寺院住職・事務局長(信徒代表)大会」が盛大かつ厳肅に催された。御講有日慶上人は「地涌の菩薩の出現に非んば唱へがたき題目也。日蓮一人はじめは南無妙法蓮華経と唱へしが、二人三人百人と次第に唱へつたふるなり。未来も又しかるべし」との日蓮大士の御妙判を引かれて、全国に諭告を發せられ奮起を促した。(深沢泉奥)

本門法華宗

【本門法華宗管長吉村日義現下が平成9年6月25日を以て退任、次期管長に京都市成願寺松本日望現下が同26日を以て推戴された。11月12日の開山会に併せて大本山妙蓮寺晋山式執行を予定している。】

【本門法華宗では3月14日の宗会に於いて山下通雄宗会議長以下本門法華宗宗会役員並びに本門法華宗各種委員が選任された。】

【大本山妙蓮寺で6月4日静岡県沼津市正見寺住職杉本日慈上人の第百六世加歷晋山式が厳修された。法類各寺院他門末僧侶はじめ、自坊正見寺より百名を超える檀信徒も参列。また全日空ホテルに移動しての祝宴も盛大に行われた。】

【妙蓮寺で平成9年発見された松尾社一切経が立正大学中尾堯教授監修で「妙蓮寺蔵松尾社一切経調査報告

書」として刊行された。また国の重要文化財にも指定されることになり、立教開宗七五〇年奉賛会の記念事業の一環として宗内各寺院に配布された。尚、大塚巧藝社を通じて一般でも入手可能となっている。】

日本山妙法寺

【1月1日祝禱会(宮城御祈念)。8・9日藤井日蓮聖人十三回忌。2月10日平和行脚百里基地出発。15日行阿院様六十七回忌法要(熱海)。3月1日ヒキニデー平和祈念行脚。4日韓国真上人入釈放祈念座込。10日東京空襲慰霊行脚。18日原発なくせ祈念行脚(東京)。3月8日・4月8日米國平和巡礼國連本部まで。3月18日核のゴミ搬入反対祈念。20日春季彼岸法要多摩道場。同日カンボジア「法の行進」(戦火燻る中の行進)。

法華宗本門流

【任期満了に因り宗会議員が改選され、次の18名が4月1日就任。渡辺俊岳(北海道・本因寺)、杉村真宏(青森・本門寺)、安川要順(千葉・要行寺)、福島泰樹(東京・法昌寺)、富田玄女(横浜・保土ヶ谷教会)、石田智清(沼津・東之坊)、中村徹隆(静岡・常唱院)、江頭正山(武生・久成寺)、三木智行(上野・本門寺)、赤田泰宏(京都・源妙院)、郡現尊(京都・常住院)、古田日穂(大阪・岡松寺)、菅原隆岳(吹田・法華寺)、三島昭栄(神戸・妙興寺)、日種光顕(兵庫・隆泉寺)、貫名日諦(岡山・本連寺)、藤井慎憲(香川・本妙寺)、三浦隆雄(北九州・本光寺)。

【三浦教習部長の興隆学林長(興隆学林専門学校長) 転進に伴い、後任には圓成淳龍師(尼崎・惠運院)が就任(4月1日)。

【各大本山の千部会法要厳修。沼津・光長寺 4月1・6日、茂原・鷲山寺 4月7・9日、京都・本能寺 5月5・7日、尼崎・本興寺 5月6・8日。大本山本陣寺では千部会法要に併せ、開宗七五〇年奉讃事業「大寶殿」地鎮起工法要厳修。】

【第四六次定期宗会は5月21・23日、平成9年度全国宗務所長会は5月28・29日開催。】

【本年度の教学講習会は次の五会場。北海道 8月22・24日、栗山町・本門寺、千葉 10月6・8日、一宮町・松涛軒、大阪 10月6・8日、大阪ガールズパレス、四国 6月19・20日、徳島・グリーンヒルあなぶき、九州 10月28・30日、種子島・

日典寺。(矢吹慈英)

【1月1日祝禱会(宮城御祈念)。8・9日藤井日蓮聖人十三回忌。2月10日平和行脚百里基地出発。15日行阿院様六十七回忌法要(熱海)。3月1日ヒキニデー平和祈念行脚。4日韓国真上人入釈放祈念座込。10日東京空襲慰霊行脚。18日原発なくせ祈念行脚(東京)。3月8日・4月8日米國平和巡礼國連本部まで。3月18日核のゴミ搬入反対祈念。20日春季彼岸法要多摩道場。同日カンボジア「法の行進」(戦火燻る中の行進)。

るつうぶん 流通文 結、数々の記念事業が成就した。 「異体同心」そのものだった。 *ポスト御遠忌、立教開宗七百五十年、表面は燃え動いているように感じるが、中身はそれほどまでに感じないのは私一人だろうか。 *物質文明時代に入り、すべての価値観が変わって来たのである。 *三年後には二十一世紀に突入、五年後には、立教開宗七百五十年、打ち上げ花火式の企画は、どんなものか。*現状に即応したビジョン展開は、どんな組織においても基本原則であろう。 *今日、日蓮門下において、まさしく必要な事は、法器養成、お題目の輪を増やす積み重ねであろう。(源)